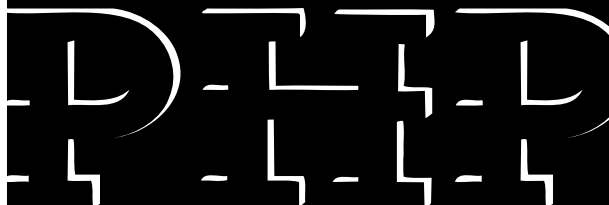


Hypertext Preprocessor

Appendix



付 録





Hypertext Preprocessor



PHPの

Appendix - A

国際化対応

PHPは主に英語圏のプログラマにより開発されたため、非英語圏、特に日本語のようなマルチバイト言語圏において使用した場合に文字化け等の問題を生じる可能性があります。

バージョン2(PHP/FI)の頃から有志の手により日本語における複数の漢字コード(EUC、SJIS、JIS)間の相互変換を行う機能がパッチとして作成され、国内のユーザに使用されてきました。

また、PHP3においては「PHP国際化チーム」としてPHPを国際化するための作業が行われ、UNICODE(UTF-8)への対応等が行われました。現在成果物としてPHP 3.0.15-i18n-jaがリリースされています。国際化版PHPの機能については第1部「1.3.5 PHPのバージョン」を参照してください。

新しいバージョンであるPHP4の国際化についても、PHPの本体に国際化の機能を取り込むことを目的として作業が進められています。

現在、塚田氏により文字コードの相互変換やマルチバイト対応文字列処理を行う関数が拡張モジュールとして提供されています(塚田氏のご好意により、本書の付録CD-ROMにも収録しました)。

今後、PHP内部文字列データのUNICODE(UCS-2)化が行われる予定です。また、HTTP入出力における文字コードの自動検出、自動変換等の機能についても順次サポートされる予定です。

PHP国際化チームでは、協力していただける方やテスターを募集しています。詳細は国際化のページ(<http://www.php.gr.jp/project/i18n/>)を参照してください。

PHP国際化メーリングリスト(英語)への加入方法

php-i18n-subscribe@lists.php.net へ空のメールを送信します。

Hypertext Preprocessor

P

Appendix - B

PHP 拡張モジュールの

組み込み方法

PHPではデータベースやイメージ関数のサポートといった機能を有する拡張モジュールを組み込むことができます。拡張モジュールを導入するには、PHPのコンパイル時にオプションとして `--with-foo` (`foo`は拡張モジュール名)や `--enable-foo` を指定します(具体的なオプションの指定方法については、PHPのソースディレクトリで `./configure --help` を実行して表示される説明をご覧ください)。

また、拡張モジュールを独立した動的モジュールとして作成し、PHPの実行時に動的に組み込むことも可能です。特にPHP4では動的モジュールの作成が簡単になっています。

動的モジュールを用いた場合には、PHP本体の実行ファイルサイズを肥大させることなく、必要な場合に必要な機能を有するモジュールのみを組み込むことができますようになります。

以下にその手順を示します(PHP4の場合^{*1})。ここでは、PostgreSQLの動的モジュールを作成してみます。なお、PHP4のソースディレクトリ(`php-4.0.x/`)がカレントディレクトリであることを仮定しています。

```
-> cd ext/pgsql
-> phpize
-> ./configure --with-pgsql *2
-> make
-> make EXTENSION_DIR=/usr/local/lib/php/extensions install
```

これによって動的モジュール `pgsql.so` が作成され、インストールが行われます。

このあと、設定ファイル(`php.ini`)に以下のように書き込みます。

```
extension_dir = "/usr/local/lib/php/extensions/" *3
extension      = pgsql.so
```

また、PHPスクリプトに以下のように書くことで、スクリプト実行時に動的モジュールをロードすることも可能です。

```
// PostgreSQL拡張機能が未ロードの場合はロードする
if(!extension_loaded('pgsql')){
    if(!dl('pgsql.so')){
        die("error!");
    }
}
```

^{*1}

PHP3における動的モジュールのコンパイル手順はPHP4と異なりシステムに依存します。詳細は、各システムにおける共有モジュールの作成方法を参照してください。

^{*2}

`configure` が PostgreSQL のインストール場所を見つけない場合は、`--with-pgsql=path` で明示的にパスを指定してください。

^{*3}

ここで指定したパスは、拡張モジュールをインストールした場所です。違う場所にインストールした場合は、そのパスを指定してください。



Hypertext Preprocessor



Appendix - C

付録 CD-ROM の

内容

付属CD-ROMは以下の構成になっています。使い方についての詳細は、アーカイブを展開して得られるドキュメントなどを参照してください。

インストールに必要なソース・アーカイブ

arc

- postgresql-7.0.2.tar.gz PostgreSQL 本体
- psqlj-7.0.2.diff.gz 日本語化psql(オプション)
- php-3.0.15-i18n-ja.tar.gz 国際化版 PHP3 本体
- php-4.0.1pl2.tar.gz PHP4 本体
- apache-1.3.12.tar.gz Apache 本体

本文で解説しているサンプル

articles

- 1 第 1 部
- 2 第 2 部

その他のサンプル

examples

- pgsq1 PostgreSQL と連動するサンプル
- gdbm gdbm を使用したサンプル *4
- gd gd を利用したサンプル *4
- mysql 第 2 部サンプルの MySQL による実装 *4

*4

これらのサンプルを実行するためには、PHP のインストールにおいて、それぞれgdbm、gd、mysqlが組み込まれている必要があります。

オプションのソース・アーカイブ

詳細については、それぞれで示したURLなどを参照してください。

others

- RPMS RPMパッケージ
 - └─ i386 i386用バイナリ
- SRPMS ソースRPMパッケージ
- gd イメージ生成ライブラリ
- mysql MySQL 関連(<http://www.mysql.com/>)
- ibase InterBase 関連(<http://inprise-chil.www.conxion.com/>)
- ldap LDAP 関連(<http://www.openldap.org/>)
- xml XML 関連(<ftp://rpmfind.net/pub/libxml/>)
- pdf PDF 関連(<http://www.pdflib.com/>)
- namazu 全文検索エンジン Namazu 関連(<http://www.namazu.org/>)
- i18n PHP 国際化バージョン(<http://php.jpnnet.com/>)
- new 本書の執筆時以降にリリースされたPHP アーカイブ
- win32 Microsoft Windows(Win32)用PHP 関連

和訳された文書およびFAQ

docs

- apache Apache 関連ドキュメント
- pg653 PostgreSQL 6.5.3 ドキュメント
 - └─ man PostgreSQL 日本語 man ページ
- php PHP 関連ドキュメント
- faq-japanese.html PostgreSQL 日本語FAQ
- faq-linux-j.html PostgreSQL-Linux 日本語FAQ
- index.html docs ディレクトリのナビゲート用
- manual-ja.pdf PHP マニュアル(PDF 版)

Hypertext Preprocessor



Namazu による

Appendix - D

全文検索

kakasi や namazu といったツールを使うと、本書に付属している CD-ROM の docs 配下の和訳文書に対して全文検索をかけ、その結果を Web ブラウザで参照することができます。ここでは簡単にその手順を示します。なお、Apache + PHP (+ PostgreSQL) が、本書の手順によってすでにインストールされ、また本書付属の CD-ROM が /mnt/cdrom にマウントされているものとします。作業は root 権限で行ってください。

namazu や kakasi のインストール

以下のような手順で namazu や kakasi がインストールされていることを確認します。

```
rpm -qa | grep namazu
```

```
rpm -qa | grep kakasi
```

何も表示されない場合はこれらのインストールを行います。紙面の都合で rpm の場合のみを示します。

```
cd /mnt/cdrom/others/RPMS/i386
```

```
rpm -Uvh perl* kakasi* namazu*
```

インストールされている各 rpm パッケージのバージョンによっては、パッケージ間のバージョン不整合という意味の警告が出ることもあるかもしれません。このような場合は、各パッケージ間の整合がとれるように、各パッケージの適切なバージョンをインストールする必要があります^{*5}。

CD-ROM の docs 配下をハードディスクにコピー

```
cp -rp /mnt/cdrom/docs /usr/local/apache/htdocs
```

全文検索用のインデックス作成

場所はどこでもよいのですが、ここでは namazu パッケージに付属する namazurc ファイルの記述に従います。なおインデックス構築には、手元のマシンで 20 ~ 30 分ほどかかりました。

*5

インストールに失敗する場合には、サポートページをご覧ください。

<http://www.net-newbie.com/support/>

```
mkdir -p /usr/local/var/namazu/index
cd /usr/local/var/namazu/index
mknmz /usr/local/apache/htdocs/docs
```

namazu.cgiの設定

```
cp /home/httpd/cgi-bin/namazu.cgi /usr/local/apache/cgi-bin/
```

/etc/namazu/namazurc をエディタで開き、以下のように変更します。diff出力のうち、行頭の < が変更前、> が変更後を表します。

```
root@star:/etc/namazu# diff namazurc.orig namazurc
14c14
< #Index          /usr/local/var/namazu/index
---
> Index           /usr/local/var/namazu/index
45c45
< #Replace        /home/foo/public_html/  http://www.foo.bar.jp/~foo/
---
> Replace         /usr/local/apache/htdocs/  /
66c66
< #Lang           ja
---
> Lang            ja
79c79
< #EmphasisTags  "<strong class=¥"keyword¥">"  "</strong>"
---
> EmphasisTags   "<strong class=¥"keyword¥">"  "</strong>"
```

これで準備ができました。http://localhost/cgi-bin/namazu.cgi にアクセスして、適当なキーワード(たとえば pg_connect)を入力して検索ボタンを押してみてください。

なおhttp://localhost/docs/にアクセスすると、各ドキュメントがメニュー形式で参照できるようになっています。



Hypertext Preprocessor



PHP 関連の

情報源

Appendix - E

コミュニティ関連

- 日本 PHP ユーザ会

URL <http://www.php.gr.jp/>

日本国内におけるPHPの普及と相互の情報交換を目的として2000年2月に設立されたPHPのユーザ会に関するページ。国際化作業、メーリングリスト、ドキュメントの整備、セミナーの開催などの活動を行っています。

- PHP 日本語メーリングリストのログ

URL <http://ns1.php.gr.jp/php-jp/>

URL <http://ns1.php.gr.jp/search.html>

PHPメーリングリストの過去ログを参照可能です。メーリングリストで質問をする際にはまず過去ログに同様の質問がないかをかならず確認しましょう。

- MARC (英語)

URL <http://marc.theaimsgroup.com/>

PHP関連のさまざまなメーリングリスト(php-general、phplibなど)のログが閲覧可能です。

PHPの開発・配布

- PHP 本家サイト (英語)

URL <http://www.php.net/>

URL <http://jp.php.net/> (国内のミラーサイト)

PHPの開発元であり、PHPの配布ファイルおよびマニュアルなどを入手可能です。

- Zend のページ (英語)

URL <http://www.zend.com/>

PHP4のスクリプトエンジンZendの開発元が運営するページです。PHPの機能を向上さ

せるZendアドオンを公開しており、チュートリアルや関数リファレンスなどのプログラミングに有用な情報も公開されています。

- PHP 国際化

URL <http://www.php.gr.jp/project/i18n/>

PHPの国際化作業を行っているPHP国際化チームのページです。国際化版PHP3を入手可能です。

- Alpha Factory

URL <http://alpha.or.jp/PHP/>

国際化版PHP3やPostgreSQLのRPMファイルを公開しています。

プログラミング情報

- PHP 日本語ページ

URL <http://www.cityfujisawa.ne.jp/~louis/apps/phpfi/>

本書の執筆陣の一人(廣川)が作成しており、PHP全般に関する情報を公開しています。

- PHP Builder (英語)

URL <http://www.phpbuilder.com/>

PHPに関する豊富なプログラミング情報が公開されており、意見交換などが可能です。

- DevShed/PHP (英語)

URL http://www.devshed.com/Server_Side/PHP/

PHP関連ニュース、PHPに関するプログラミング情報を公開しています。

- PHP Knowledge Base (英語)

URL <http://php.faqs.com/>

PHPに関するFAQを公開しています。ジャンル別に整理されていて見やすく、情報量も豊富です。

- PHP Function Table (英語)

URL <http://www.zend.com/phpfunc/>

PHP関数に関する情報をバージョン間の互換性やドキュメント化されていないものも含めて公開しています。

クラスおよび関数

- PHP Base Library (英語)

URI <http://phplib.sourceforge.net/>

PHP用クラス標準ライブラリPHPLIBを開発・公開しています。PHPLIBはセッション管理、データベースアクセス、テンプレートなどの有用なクラスを提供します。

- PHP Class pository (英語)

URI <http://phpclasses.upperdesign.com/>

DB抽象化クラスなどの有用なPHPクラスやPHP関連書籍に関する情報を公開しています。

- PHP CodeBase (英語)

URI <http://php.codebase.org/>

多くのPHPコードをジャンル別に集めて、配布しています。

- PHP Code Exchange (英語)

URI <http://px.sklar.com/>

有用なPHPコードやクラスをジャンル別に分類、公開しています。

- Binarycloud (英語)

URI <http://www.binarycloud.com/>

PHPアプリケーション構築用のクラスBinarycloud(RDBMS、XML等をサポート)を配布しています。

PostgreSQL 関連

- PostgreSQL 本家サイト (英語)

URI <http://www.postgresql.org/>

オープンソースRDBMSのPostgreSQLを開発・配布しています。

- 日本 PostgreSQL ユーザ会

URI <http://www.jp.postgresql.org/>

日本PostgreSQLユーザ会のページです。

- PostgreSQL メーリングリスト

URI <http://www.sra.co.jp/people/t-ishii/PostgreSQL/index.html>

PostgreSQL メーリングリストの登録、過去ログの参照・検索等が可能です。

MySQL 関連

- MySQL の開発・配布元

URI <http://www.mysql.com/>

MySQL の開発および配布を行っています。

- 日本 MySQL ユーザ会

URI <http://www.mysql.gr.jp/>

日本 MySQL ユーザ会のページです。MySQL 日本語マニュアルの配布などを行っています。

Apache 関連

- Apache 本家サイト（英語）

URI <http://www.apache.org/>

Web サーバー Apache の開発・配布元です。

- 日本語化 Apache サーバ・プロジェクト

URI <http://www.apache.or.jp/>

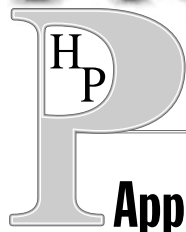
Apache のマニュアルなどの日本語化を公開しています。

- Apache 日本語メーリングリスト

URI <http://apacheml.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

Apache に関するメーリングリストのログを参照可能です。

Hypertext Preprocessor



PHP と

Appendix - F

MySQL

MySQL は、オープンソースのデータベースとして特に海外で人気があるデータベースです。PHP4 ではMySQL 用モジュールが標準でインストールされ、MySQL サーバにアクセスすることが可能です。MySQL (バージョン 3.23.19 以降) は GPL に基づき配布されています。

本書では、主に PostgreSQL を対象とした記述を行っていますが、MySQL の場合にもほぼ同様の機能を実現可能です。

付録 CD-ROM に第 2 部のサンプルを MySQL で実装した例を収録しましたので参照してください (なお、データベースがサポートする機能が異なるため、完全互換ではありません)。

執筆時点での最新版である MySQL サーバ (MySQL-3.23.22) を Vine Linux 2.0 にインストールし、サンプルコードを実行する手順を以下に示します。

MySQL 配布ファイルの入手

<http://www.mysql.com/> から MySQL の RPM ファイル (ソースまたはバイナリ) を入手します (MySQL-3.23.22 の RPM ファイルを CD-ROM に収録してあります)。

ソースコードのコンパイル (ソース版のみ必要)

ルートで以下のコマンドを実行します ('shine:~\$' はシェルプロンプトを表しています)。

```
shine:~$ rpm --rebuild MySQL-3.23.22beta.src.rpm
```

これによって MySQL サーバの実行ファイルが /usr/src/redhat/RPMS/i386 に作成されます。

MySQL 実行ファイルのインストール

MySQL のサーバ、クライアント、ライブラリをインストールします。

```
shine:~$ cd /usr/src/redhat/RPMS/i386
```

```
shine:~$ rpm -ivh MySQL-3.23.22beta.i386.rpm
```

```
shine:~$ rpm -ivh MySQL-devel-3.23.22beta.i386.rpm
```

```
shine:~$ rpm -ivh MySQL-client-3.23.22beta.i386.rpm
```

MySQL サーバを起動

MySQL サーバを起動します。

```
shine:~$ /etc/rc.d/init.d/mysql start
```

MySQL データベースの作成

まず、データベースfooを作成します。

```
shine:~$ mysqladmin create foo
```

これでデータベースfooが作成されました。

MySQL サーバにアクセスし、SQL コマンドを対話的に入力するためのコマンドとしてmysqlが用意されています。ここのコマンドは以下のように使用します。

```
mysql -u 接続ユーザ名 データベース名
```

MySQL データベース接続権限の設定

データベースの接続権限を設定するためにシェル環境でmysqlクライアントを起動し、データベースmysqlに接続します。

```
shine:~$ mysql -u root
```

接続が成功すると、以下のプロンプトが現れます。

```
mysql>
```

以下のように入力し、Webサーバのユーザ(ここではnobodyとします)にデータベースfooへ接続する権限を与えます。

```
mysql>GRANT ALL PRIVILEGES ON foo.* TO nobody@localhost;
mysql>¥q
```

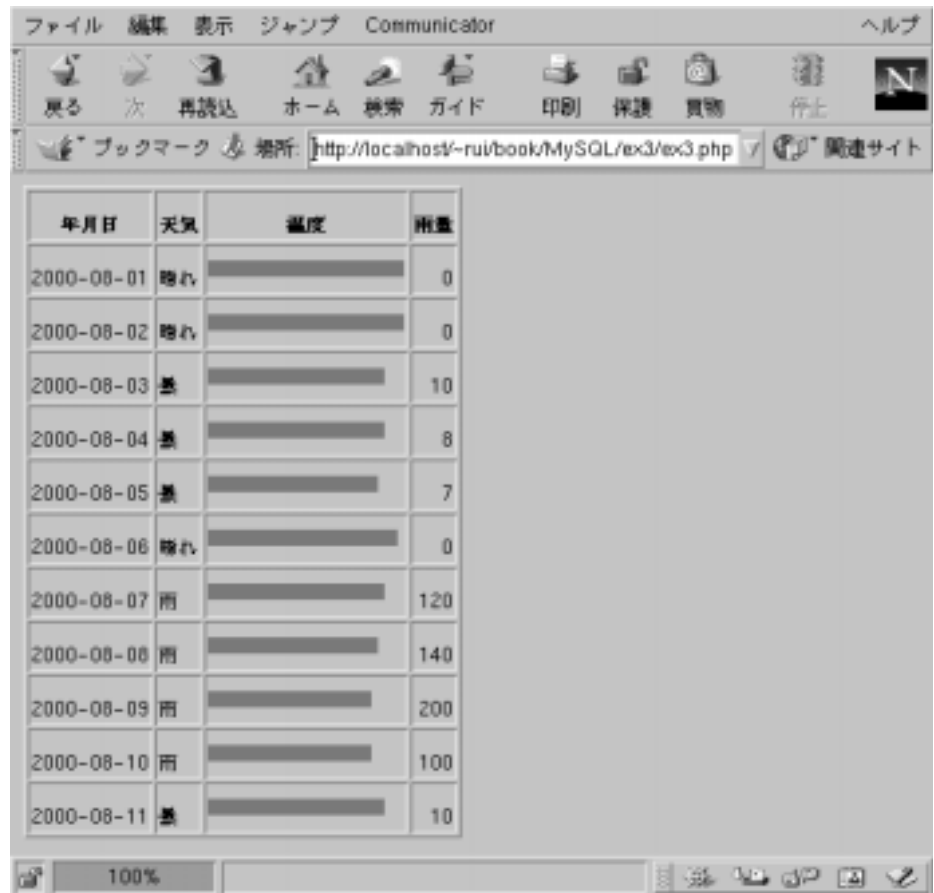
MySQL データベースへデータを入力

サンプルデータ(付録CD-ROMの/examples/mysqlに収録)を挿入します。

```
shine:~$ cd /mnt/cdrom/examples/mysql
shine:~$ mysql foo < otenki.sql
shine:~$ mysql foo < add.sql
```

PHP から MySQL データベースへのアクセス

サンプルデータ(付録CD-ROM の /examples/mysql に収録してあります)をWebサーバから接続可能なディレクトリ(/public_html/ など)にコピーし、ブラウザからアクセスしてみましょう。以下のような画面が出力されます。



年月日	天気	温度	雨量
2000-08-01	晴れ		0
2000-08-02	晴れ		0
2000-08-03	曇		10
2000-08-04	曇		8
2000-08-05	曇		7
2000-08-06	晴れ		0
2000-08-07	雨		120
2000-08-08	雨		140
2000-08-09	雨		200
2000-08-10	雨		100
2000-08-11	曇		10

Hypertext Preprocessor



Appendix - G

PHP と

GD

PHPにおいてイメージ生成ライブラリGDのサポートを有効にすることにより、PNG^{*6}、JPEG^{*7}などのイメージを動的に生成可能です。また、TrueTypeフォントを使用して文字を描くこともできます^{*8}。

これらの機能を使用するには、GDライブラリおよび関連するライブラリをインストールする必要があります。以下にその手順をまとめます。

ここではすべてソースからコンパイルするものとして記述を行いますが、RedHat系のLinuxではRPMパッケージからインストールすることも可能です。この場合、各パッケージをrpm -ivh RPMファイル名.rpmでインストールしてください。

ディストリビューションによっては、必要なライブラリ(zlib、libpng等)がすでにインストールされている場合もあるので、rpm -q zlib などとして事前にインストールの有無を確認してください(RedHat系Linuxの場合)。

ここでインストールするライブラリは、CD-ROMにソースコードを収録してあります^{*9}。

zlibのインストール

```
-> tar xzvf zlib-1.1.3.tar.gz
-> cd zlib-1.1.3
-> ./configure --with-shared
-> make install
```

Vine-2.0 には zlib-1.1.3 がインストールされています。

libpngのインストール

```
-> tar xzvf libpng-1.0.7.tar.gz
-> cd libpng-1.0.7
-> ln -s scripts/makefile.linux Makefile
-> make install
```

Vine-2.0 には libpng-1.0.3がインストールされています。

^{*6}

GD-1.6 以降 + PHP-3.0.13以降でサポートされています。

^{*7}

GD-1.6 以前でサポート。GD-1.6以降ではサポートされていません。

^{*8}

GD-1.7 + PHP-3.0.16以降でサポートされています。

^{*9}

インストールに失敗する場合には、サポートページをご覧ください。
<http://www.net-newbie.com/support/>

libjpeg のインストール(PHP-3.0.16 以降または PHP4 を使用する場合のみ)

```
-> tar xzvf jpegsrc.v6b.tar.gz
-> cd jpeg-6b
-> ./configure --enable-shared --enable-static
-> make install
```

Vine-2.0 には libjpeg-v6b がインストールされています。

freetype のインストール

GD で TrueType フォントを使用したい場合は、freetype および使用する TrueType フォントをインストールします。多くのディストリビューションでは、freetype はすでにインストールされています(Vine-2.0 の場合は、/usr/X11R6/lib/X11/fonts/TrueType/ に TrueType フォントがあり、freetype-1.3 がインストールされています)。TrueType の種類によっては、正常に表示されない場合があるので注意してください。

```
-> tar xzvf freetype-1.3.1.tar.gz
-> cd freetype-1.3.1
-> ./configure --enable-static
-> make install
```

GD 1.8.3 のインストール

本項執筆時点でのほとんどのディストリビューションでは、1.6 より前のバージョンの GD がインストールされています(Vine-2.0 の場合は gd-1.3)。この場合、PNG イメージは使用できないため、より新しいバージョンの GD をインストールする必要があります。この際、複数のバージョンの GD を混在させると PHP のコンパイル時に GD のバージョンが正しく認識されない場合があります。古いバージョンを削除するか、別の場所(/usr/local など)にインストールしてください。

GD-1.7 以前では、UNICODE エンコードの TrueType フォントを表示するためには PHP スクリプトにおいてコード変換を明示的に行う必要がありました。GD-1.7 以降では、GD のコンパイル時に -DJISX0208 を指定することにより、コード変換を行う必要がなくなりました。

```
-> tar xzvf gd-1.8.3.tar.gz
-> cd gd-1.8.3
```


MakefileのCFLAGSおよびLIBSを以下のように書き換えます。

```
CFLAGS=-O -DHAVE_JPEG -DHAVE_LIBTTF -DJISX0208
```

```
LIBS=-lm -lgd -lpng -lz -lttf
```

```
-> make install
```

PHP のインストール

日本語TrueTypeフォントには、UNICODEエンコードのものとシフトJISエンコードのものが存在します。後者についてはデフォルトのPHPでは使用できないため、対応版を入手するか、以下のようにPHPのソースコードを書き換える必要があります。ここではPHP-3.0.15-i18n-ja の場合について説明します。

- functions/gd.c の2055行目(PHP-3.0.16の場合は2187行目)

```
error = gdttf(im, brect, col, fontname, ptsize, angle, x, y, string);
```



```
error = gdImageStringTTF(im, brect, col, fontname, ptsize, angle, x, y, string);
```

- functions/gdttf.c の12行目

```
#if HAVE_LIBTTF|HAVE_LIBFREETYPE
```



```
#if HAVE_LIBFREETYPE
```

続いて、configureのオプションに --with-gd=/usr/local --with-ttf(/usr/local 以下にGDをインストールした場合)を追加してPHPを再コンパイルし、インストールします(PHPのインストール手順の詳細については第4部を参照)

<?php phpinfo() ?> と書いたPHPスクリプトを作成し、ブラウザでアクセスした際に以下の項目が表示されることを確認してください。

gd Version 1.6(PNG) or later, FreeType support

GDの使用例については、第3部「3.2 イメージ関数」を参照してください。

Hypertext Preprocessor



PHP

Appendix - H

Zend について

Zendは、PHP3のスクリプトエンジンの作者であるAndi GutmansとZeev Suraskiにより設立された会社で、PHP4のスクリプトエンジンであるZendエンジンを開発しています。

Zendエンジン自体はZendの製品であり、PHP以外のソフトウェアにも適用可能です。PHPにおいてはQ Public License(<http://www.zend.com/zend/qpl.php>)の元にZendエンジンを無償で 사용할 ことが可能です。

Zendは、PHPの性能をさらに向上させるアドオンパッケージ「Zendアドオン」を開発しています。現在、以下の3種類の製品が予定されています。

- Zend Optimizer

スクリプトコードをロード時に最適化する最適化コンパイラで、実行速度が大幅に向上するといわれています。オープンソースではありませんが、無償で 사용할 ことが可能です。

- Zend Cache

コンパイル済みの中間コードをサーバのメモリ内に保持することにより、ロードおよびコンパイルに要する時間を節約し、処理を高速化します。アクセス数の多いサイトでは特に有効です。

- Zend Compiler

コンパイル後のコードを配布することを可能にする製品で、企業がソースコードを非開示とした製品を開発したい場合に有用です。

Hypertext Preprocessor



PHP の

Appendix - I

配布ライセンス

PHP のライセンス形態は「PHP License」に基づきます。以下に、PHP の配布物に含まれる LICENSE ファイルとその抄訳を示します。PHP 自体はもちろんのこと、本書で使用している サンプルスクリプトについても、特に断りがない限りは PHP ライセンスの条項にしたがうものとします。

The PHP License, version 2.02

Copyright (c) 1999, 2000 The PHP Group. All rights reserved.

以下の条件を満たす場合に限り、ソースまたはバイナリ形式による再配布およびその使用を、改変をとまなうかどうかにかかわらず許可します。

ソースコードを再配布する場合は、標記の著作権表記、当該条件一覧および下記の免責条項をそのままのかたちで付記しなければなりません。

バイナリ形式で再配布を行う場合は、標記の著作権通告、当該条件一覧、および下記の免責条項を、ドキュメントの中かつ / または配布物に含まれるそのほかの部分で複製しておかなければなりません。

PHP グループの特別な許可を受けることなく、"PHP" という名前を、当該ソフトウェアから派生する製品の保証や販売促進のために使用してはなりません。この条項は、PHP と結合して動作するアドオン・ライブラリやツールに関しては適用されません。このような場合においては、その製品が PHP をサポートすることを示すために PHP という名前が使用されることもあるでしょう。

PHP グループは、今後も引き続いてライセンス条項を改変したり、新しいバージョンのライセンス条項を発表したりするかもしれません。各バージョンには識別のためのバージョン番号が与えられます。

対象となるコードがいったん特定のライセンスバージョンのもとで公開された場合、そのバージョンのもとでそのコードを使い続ける場合もあるでしょう。また、そのような対象コードを、PHP グループにより発表された後続のライセンスバージョンによって使うことを選択す

る場合もあるでしょう。PHP グループ以外のいかなる人も、このライセンスのもとで生成された対象となるコードに対して適用できる条項を変更する権利はありません。

いかなる形式の再配布においても、次の承認事項を含まなければなりません。「この製品にはPHP が使われています。これは <http://www.php.net/> から取得でき、自由に使用することができます」。

このソフトウェアは、Zend Technologies, Ltd. の製品である Zend エンジンと協調して動作します。Zend エンジンは、このライセンス条項の元で、PHP の一部分として配布される場合のみ、PHP 協会 (PHP Association) に対してライセンスされています (これは Zend からの許可に基づきます。この件に関しては <http://www.php.net/license/ZendGrant/Zend> に記述があります)。

Zend エンジン (またはその一部分) を残りの部分から分離したり、Zend エンジン (またはその一部分) を改変する場合、その分離されたり改変されたりした Zend エンジンにはこのライセンスが適用されず、代わりに無条件に <http://www.zend.com/license/ZendLicense/> のライセンスが適用されます。

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PHP DEVELOPMENT TEAM "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PHP DEVELOPMENT TEAM OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

このソフトウェアは、PHP グループに成り代わった数多くの個人が、ボランティア的に貢献したもので構成されています。

PHP グループに連絡をとるには group@php.net にメールしてください。

PHP グループと PHP プロジェクトについての詳細な情報については、<http://www.php.net> をご覧ください。